

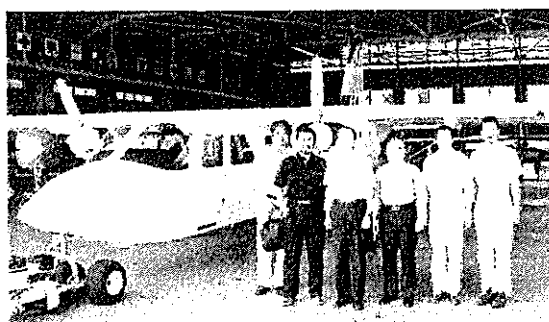
## ◎ ITCアエロスペース、第一航空へアイランダー納入

世界で2千機以上飛行している離島コミューター機のアイランダー(10人乗り)のメーカーである英国B-N社の日本の代理店である㈱ITCアエロスペース(本社:中央区、中山智夫社長)は、ブリテン・ノーマン式アイランダーBN2B-20型機1機(登録:JA1270)を輸入、6月4日に組立耐検を取得し、八尾空港で第一航空(八尾市、西川昌信社長)へ6月13日に納入した。

第一航空は本紙6月22日付14~15ページに掲載したように、琉球エアコミューター(RAC)が運航していた那覇~粟国線を継承し、6月19日からアイランダーで路線に就航しているが、今回納入されたアイランダーも同路線や那覇~沖永良部~徳之島線などに就航予定。

ITCは、従来から航空事業が広く開放されている海外市場で活発に現地の地域航空会社、コミューター会社、小規模エア-

ライン、Low Cost Carriers (LCC)に対して航空機のリース事業を行い、実績を上げてきたが、同社の中山社長は、「ゼネアビが衰退、大手航空会社が一般管理費の高止まりの中で、採算悪化を理由に多くの路線廃止を加速させている。こうした日本の航空機市場で、今後、コミューター機、ターボプロップ機、小型旅客機などの需要が再認識されると判断、積極的にアイランダー、DHC8-100、-200、-300型機など各種航空機の販売とリース提案を行ってゆく」方針で、営業活動の強化を打ち出している。



写真中央左は第一航空㈱の山田取締役副社長、中央右がITCアエロスペースの中山社長。